

地域事業者との連携活動

1) いわき市「日本酒【絆】」醸造協力

平成23年度に、いわき市における農産物の風評被害対策と復興を目的として、いわき市観光物産課が中心となって、地元の酒造会社である太平桜酒造協力のもと、いわき産米を使ったオリジナル純米酒「絆（きずな）」の醸造を行った。この純米酒「絆」は、いわき市のPR用として主にイベント会場で販売された。販売に先立ち、「絆」の放射能検査を環境放射線測定室で行った。

平成24年度は、昨年度好評だった純米酒「絆」に加え、第2弾として吟醸酒「絆」を醸造することとなった。醸造元は、地元の酒造会社である四家酒造にお願いすることとなった。今年度は、企画時からいわき明星大学農業愛好会「GreeningGreen」と環境放射線測定室が関わることになった。「GreeningGreen」は、酒米の田植えと稲刈りそして「絆」ラベルのデザインを担当し、環境放射線測定室は、田んぼ土壌と酒米玄米の放射能検査、さらに醸造後の清酒の放射能検査を担当することとなった。

田植えは平成24年6月2日（土）、稲刈りは9月29日（土）に、いわき市観光物産課、JAいわき市、いわき観光まちづくりビューロー、いわき明星大学農業愛好会「GreeningGreen」、太平桜酒造、四家酒造、福島インフォメーションリサーチ&マネジメントが参加する中、いわき市川部町の圃場で行った。作付した酒米は「日本晴」と「五百万石」の2種類であった。

収穫した酒米を用いて、地元酒造会社により、酒米「日本晴」から純米酒「絆」（醸造元：太平桜酒造）と「五百万石」から吟醸酒「絆」（醸造元：四家酒造）の醸造が行われた。平成25年2月末頃に純米酒「絆」が、平成25年4月頃に吟醸酒「絆」の販売が開始された。「絆」はいわき・ら・ら・ミュウ（いわき市観光物産センター）や道の駅で販売されており、店頭には環境放射線測定室で実施した放射能測定結果も掲示してある。



田植え風景



稲刈り風景



純米酒「絆」



吟醸酒「絆」



いわき明星大学農業愛好会がデザインしたラベル



店頭で販売しているようす（放射能測定の掲示結果あり）